



山宣ひとり
孤塁を守る



山本宣治の花面スケッチ (原
高倉新聞 昭和4年2月24日号)

山本宣治(1889-1929) 生物学者・政治家。労働農民党に所属し、昭和3年京都から代議士に当選した。死後、日本共産党の党籍に加えられた。

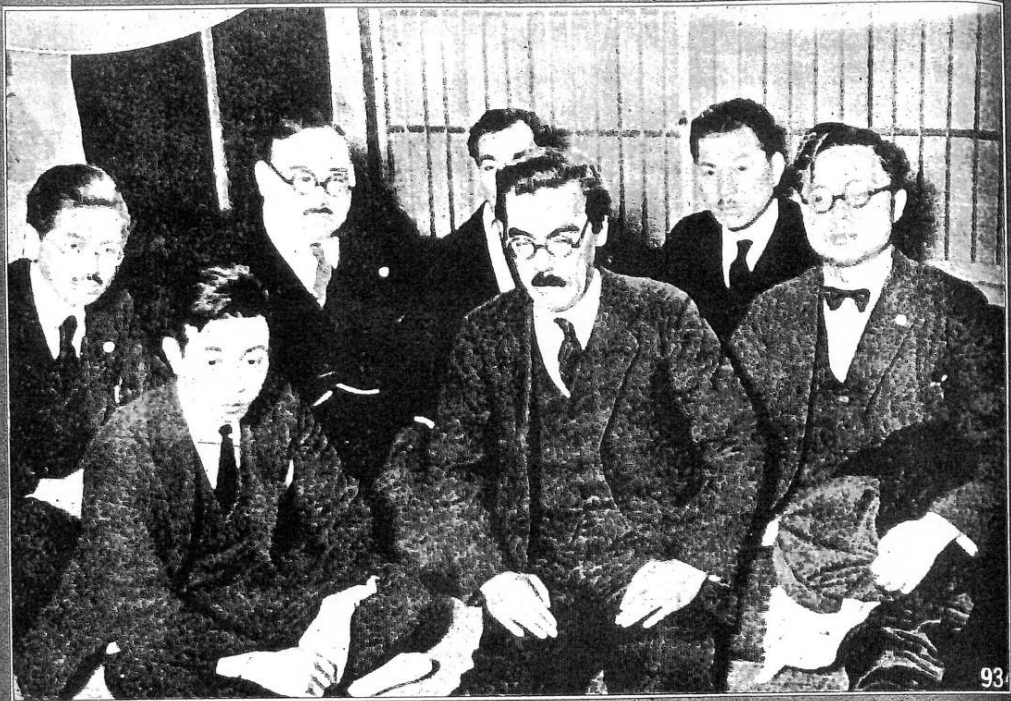
山本宣治の著書「労働者農民の政府」を通じて労働者農民の科学へ

昭和四年(一九二九)三月、さきに緊急勅令によって、最高刑を死刑と改めた治安維持法の改正案が、その承認を求めらるべく、第五十六議會に上程された。

当時、衆議院には、水谷長三郎(旧労働農民党)、河上丈太郎(日本労働党)、鈴木文治、西尾末広(社会民衆党)ら、八人の無産政治議員がいた。しかし山本宣治(旧労働農民党)をのぞく他の議員は、三、一五事件以後における弾圧のげしきのため、共産党の責任をゆがむなど、妥協的な態度に変わってゆき、山本のみが労働者・農民の支持を背景に、治安維持法の改正に反対しつづけた。

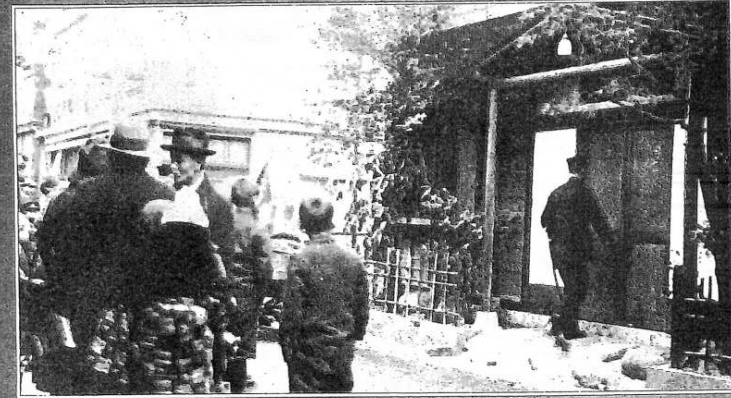
労働者農民の
政府を通じて
科学へ

山本宣治



93

凶報を聞いてかけつけた同志たち 前列左から額田兼光、大山輔夫、水谷長三郎、後列左から河上丈太郎、鈴木文治、浅原健三、西尾末広



凶案のおきた神田の光榮館

↓ 刺殺犯人黒田保久二
右翼団体七生義団の一員。大審院で懲役12年の求刑をうけた。



「山宣」の愛称で知られる山本宣治は、京都府宇治の旅籠「花屋敷」の一粒として生まれ、カナダで苦学して生物学者を志し、東大理学部に卒んだ。卒業後は、同志社大・京大の講師となり、労働者のための性科学の啓蒙や産児制限運動にとりくみ、京都労働学校校長などをへて無産者解放運動に進んだ。

大正十五年(一九二六)労働農民党が結成されると、京都府連合会の教育部長となり、翌昭和二年、京都府第五区の補欠選挙に立候補したが落選した。さらに昭和三年、第二回普通選挙に、兩院をおして京都府第二区から立候補し、一万四四二票を得て、みごとに当選した。労働農民党が解散されると、新党準備会に加わり、昭和四年、政治的自由獲得労働同盟に参加した(これも解散を命ぜられた)。旧労働農民党の同志水谷長三郎が離脱して、別に地方的小政党(労働大衆党)を組織したのは、このときのことである。

三月四日、議會出席のための上京を前にして、山宣は大阪で開かれた全国農民組合大会において、死刑法に治安維持法反対の演説をおこなった。「じつに今や階級立場を守らぬものはただ一人だ。だが僕は淋しくない。山宣ひとり孤塁を守る。しかし背後には多数の同志が……」。演説はここで、警官によって中止させられてしまった。